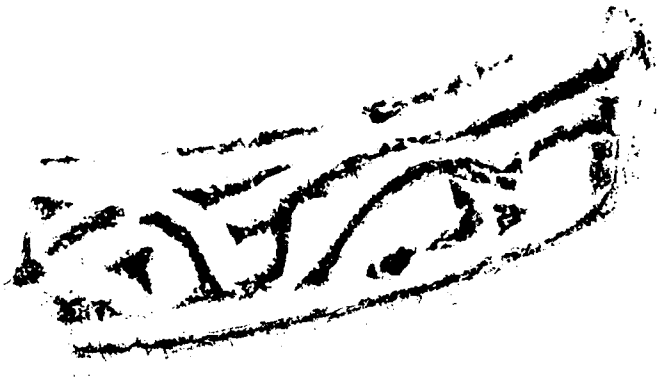
熊取町埋蔵文化財調査報告第２集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・Ⅰ



１９８７年　３月

熊取町教育委員会

熊取町遺跡群 発掘調査概要報告書・Ⅰ 正誤表

ページ数	行数	誤	正
P 3		第 3 節	第3節 調査に至る経過
P18	5行目	第 1 4 図	第15図、第16図、第17図
P26 第3表	12－15	黄 橙 圧 色	黄 橙 灰 色
図版第一		東門寺遺跡85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第一		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第一		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第二		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第二		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第三		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区
図版第三		東門寺85年－2区	東門寺跡85年－2区

はしがき

古代から熊取野と呼ばれた本町域は、現在に至るまで変わることなく“熊取”として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

なかでも、その歴史の足跡を克明に刻んだ遺跡が数多く存在し、そこには祖先の人々の生活の記録である貴重な遺構・遺物が埋蔵されています。

熊取町においては、昭和60年度から国庫補助をうけ、はじめて町主体の発掘調査を実施し、今年度で2年目を迎えましたが調査機材も何もない状態からのスタートであり、今もって完全な体制が確立されず成果も不十分であったことは否めないところであります。

このような状況のもとでの調査ではありましたが、担当者としては悪条件のなかで最善を尽くしたものと信じており、ここにその成果として昭和61年度調査報告書を発刊する運びとなりました。ほんのささやかなものではありますが、周辺地域史研究のための資料となり、延いては、埋蔵文化財保護への理解と認識のために役立つ事を念願するものであります。

最後に発掘調査及び調査概要報告書の作成にご尽力いただきました方々並びに関係者各位に対し感謝の意を表します。

昭和62年3月

熊取町教育委員会

教育長　原　治平

例　　言

1. 本書は熊取町教育委員会が昭和61年度国庫補助事業（国補助率50％．府補助率25％．町負担率25％）として計画し、町史編さん室が担当、実施した熊取町遺跡群の調査概要報告書である。

   また、この調査概要報告書には前年度に調査をおこなった東円寺跡85年一2区の調査の概要もあわせて掲載した。

2. 調査は熊取町教育委員会嘱託井田匡を担当者として昭和61年4月1日に着手し、昭和62年3月31日終了した。なお、調査における事務、連絡等は町史編さん室根来光恵がおこなった。
3. 調査の実施と整理にあたっては松浪多加司、小橋秀行、嶋田恒、沢雅樹、金納圭吾、谷口浩一、佐原新悟、森下恵子、新居田美穂、渡辺由美子、奥田美帆子、新居田美紀、富村伊都子の諸氏の協力と援助を受けた他坪之内徹、佐久間貴士、松村隆文、森屋直樹、仮屋喜一郎の各氏より有益な助言を得た。また土地所有者及び関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。
4. 本報告書中の標高は東京湾平均海水面を基準とし、方位は地図以外は磁北を示すものとした。
5. 本書の執筆、編集は井田がおこなった。
6. 本調査にあたっては写真・実測図等の記録を作成するとともにカラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

目　　次

第 1 章　沿　革
　第 1 節　はじめに
　第 2 節　熊取町の環境
　第 3 節　調査に至る経過
第 2 章　東円寺跡の調査
　第 1 節　既往の調査
　第 2 節　東円寺跡 86年－1区の調査
　第 3 節　東円寺跡 86年－3区の調査
　第 4 節　東円寺跡 86年－4区の調査
　第 5 節　東円寺跡 85年－2区の調査
第 3 章　久保城跡の調査
　第 1 節　既往の調査
　第 2 節　久保城跡 86年－1区の調査
第 4 章　まとめ
付　章　小字名について

図　版　目　次

図版第一　東円寺跡 85年－2区　調査区全景
図版第二　東円寺跡 85年－2区　第 6 トレンチ、第 7 トレンチ
図版第三　東円寺跡 85年－2区　調査区西端石溜り、調査区中央部
図版第四　東円寺跡 86年－4区　調査区全景
図版第五　久保城跡 86年－1区　調査区全景
図版第六　東円寺跡 85年－2区　出土遺物

挿　入　目　次

第 1 図　熊取町の位置
第 2 図　熊取町周辺遺跡分布図

第 3 図　東円寺調査区位置図　6
第 4 図　東円寺跡周辺表採瓦(1)　6
第 5 図　東円寺跡周辺表採瓦(2)　7
第 6 図　東円寺跡 86年－1区、3区土層図　8
第 7 図　東円寺跡 86年－4区土層図、平面図　10
第 8 図　東円寺跡 86年－4区出土遺物　11
第 9 図　東円寺跡 85年－2区石溜り1平面図　14
第 10 図　東円寺跡 85年－2区平面図、土層図　14
第 11 図　東円寺跡 85年－2区出土遺物(1)　13
第 12 図　東円寺跡 85年－2区出土遺物(2)　15
第 13 図　東円寺跡 85年－1区、2区、86年－4区平面合成図　16
第 14 図　東円寺跡 85年－2区出土軒平瓦　17
第 15 図　久保城跡周辺表採遺物(1)　18
第 16 図　久保城跡周辺表採遺物(2)　18
第 17 図　久保城跡周辺表採遺物(3)　19
第 18 図　久保城跡 86年－1区出土遺物　20
第 19 図　久保城跡 86年－1区平面図　21
第 20 図　久保城跡 86年－1区土層図　21
第 21 図　久保城跡 86年－1区調査区位置図　21
第 22 図　東円寺跡周辺小字名図　23
第 23 図　久保城跡周辺小字名図　23

表　目　次

第 1 表　国庫補助調査区一覧表　1
第 2 表　東円寺跡周辺表採瓦観察表　24
第 3 表　東円寺跡 85年－2区出土瓦観察表　25～26
第 4 表　久保城跡周辺表採瓦観察表　27

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・Ⅰ

第1章　沿　　革

第1節　は　じ　め　に

開発事業の急激な増加に伴う遺跡破壊の恐れは、わが熊取町でも例外ではない。泉州沖に計画されている関西国際空港に接続する近畿自動車道や泉州山の手線などの広域道路の整備や大規模な宅地造成等が進み早急な処置が望まれるところである。とりあえず早急に行われなくてはならないのは、埋蔵文化財包蔵地の存在確認とその範囲の追求である。熊取町教育委員会では昭和60年度より国庫補助事業として町内の各遺跡の土木工事及び建築工事に伴う緊急発掘調査を行うこととなり、本年度で2年目を迎えた。しかしその全てにおいて遺跡の性格、範囲の明確な把握にまで至っておらず、調査の条件、面積、体制等の制約により調査成果はまだまだ不十分であることは否めない。以下熊取町での昭和61年度の国庫補助事業の調査を表－1にまとめたので参照願いたい。

第1表　昭和61年度　国庫補助調査区一覧表

調　査　地　点	申請者	所　在　地	申請面積m²
東円寺跡86年－1区	藤原　保	熊取町大字五門1133－1	469　m²
東円寺跡86年－3区	坂上　米造	熊取町大字紺屋201－1	1287　m²
東円寺跡86年－4区	藤原　勝三	熊取町大字野田2320－1	695.89　m²
久保城跡86年－1区	田中　功	熊取町大字久保1698	299.64　m²
降井家屋敷跡86年－1区	坂上　雅章	熊取町大字大久保－1	331.68　m²

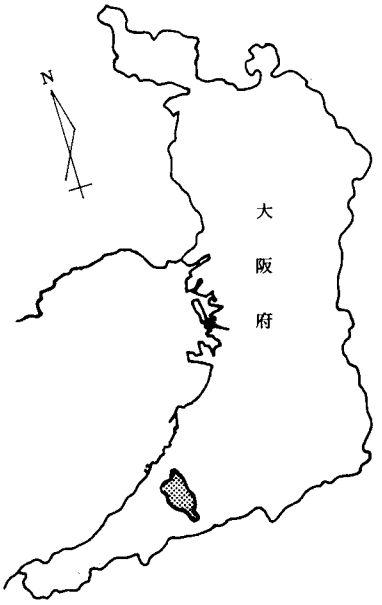
第２節　熊取町の環境

大阪府の南部、熊取町の位置する泉南地域は、基盤山脈である和泉山脈より丘陵及び洪積段丘の高位面が派生し、その前縁としての洪積段丘中位面や低位面で構成されている。また河川の下流には沖積段丘や氾濫原が存在している。

熊取町の歴史的環境としては池の谷遺跡が旧石器の散布地とされているが、詳細は不明である。[1]縄文時代になると成合寺遺跡サヌカイトの石鏃、スクレイパー、打ち石などが出土している。弥生時代の遺物として、大久保Ｂ遺跡からは壷や高杯が出土しており東円寺跡でも石鏃、甕などが出土している。古墳時代については[2]五門地区で古墳が２基存在したと記録されているが詳細は不明である。また奈良時代、平安時代[3]になると東円寺跡より７、８世紀の遺物としては須恵器の高杯、甕、蓋杯が出土しており、遺構としては溝、掘立柱建物跡とみられるピットが検出されている。調査によって出土した蓮華文軒丸瓦、唐草文軒平瓦より東円寺は平安末期の創建とみられる。

熊取町域での中世、近世の遺物、遺構については熊野もうでや紀州の根来寺の勢力拡大、また中家、降井家などの土豪の支配の中で経済、政治、軍事の影響をうけている。今後これらの解明も必要であるし、成合寺遺跡で検出された土坑墓の可能性をもつ600基の土坑や和田地[4]区の埋め墓、参り墓といった両墓制は、中世以降の風習を考察する上で貴重な資料となるだろう。

これらはごく断片的な資料ではあるが、これらの資料の蓄積により熊取町の歴史をより明確にしていかなければならない。またその作業が泉南の歴史を明確にする作業の一翼を担っているものと確信している。



第１図　熊取町の位置

第３節

熊取町内では今年11件の発掘調査を実施した。そのうち国庫補助事業としては５件調査をおこなった。調査区名はそれぞれの遺跡で調査を実施した順に86年－１区、２区と呼称することとした。今年調査を実施した区域として東円寺跡では86年－１区、86年－３区、86年－４区の３ヶ所、そのほか、久保城跡86年－１区、降井家屋敷跡86年－１区であり、久保城跡は今年度初めて調査を行うこととなった。なお東円寺跡85年－２区は昭和60年度の年度末の調査であったため､昨年度の調査報告書には掲載できなかったので本書に掲載し、降井家屋敷跡86年－1区は年度末に調査を実施したため、報告については機会を改めたい。

注

（１）安里　進　「成合寺　近畿自動車道和歌山線建設に伴う　埋蔵文化財発掘調査概要報告書」（財）大阪文化財センター

（２）中西靖人　「伊藤忠商事・日鐵不動産Ｋ.Ｋ 開発計画に伴う泉南郡熊取町埋蔵文化財分布調査報告書」（財）大阪文化財センター

（３）藤沢真依　「東円寺跡発掘調査概要報告書 Ⅰ 」　大阪府教育委員会
　　芝野圭之介「東円寺跡発掘調査概要報告書 Ⅱ 」　大阪府教育委員会
　　松村隆文　「東円寺跡調査概要・Ⅰ」　熊取町教育委員会

（４）玉谷　哲氏の御教示を得た。

第２図　熊取町周辺遺跡分布図

1	東円寺跡	37	森B遺跡	73	母山近世墓地	109	岸ノ下遺跡
2	久保城跡	38	森ノ大池遺跡	74	梨谷遺跡	110	諸目遺跡
3	小垣内毘沙門堂跡	39	森A遺跡	75	川原遺跡	111	城ノ塚古墳
4	甲田小春家住宅	40	根福寺城跡	76	西ノ上遺跡	112	禅興寺跡
5	鳥羽殿城城跡	41	水間寺遺跡	77	鏡塚古墳	113	ダイジョウ寺跡
6	城の下遺跡	42	水間墓地	78	向井山遺跡	114	三軒屋遺跡
7	高蔵寺城跡	43	三ケ山西遺跡	79	笹ノ山遺跡	115	吉見藩陣屋跡
8	来迎寺本堂	44	三ツ松遺跡	80	土丸城跡	116	田尻遺跡
9	墓の谷遺跡	45	森城跡	81	土丸南遺跡	117	夫婦池遺跡
10	池の谷遺跡	46	高井天神廃寺・高井城跡	82	土丸遺跡	118	一丘神社遺跡
11	雨山城跡	47	河内遺跡	83	屯田遺跡	119	海会寺跡
12	成合寺遺跡	48	王子遺跡	84	日根神社遺跡	120	北野遺跡
13	下高田遺跡	49	下新出遺跡	85	八王子遺跡	121	仏性寺跡
14	花成寺遺跡	50	トビガ谷遺跡	86	北之前遺跡	122	海営宮池遺跡
15	大久保B遺跡	51	丸山古墳	87	野々宮遺跡	123	中小路遺跡
16	大谷池遺跡	52	流木土田山遺跡	88	垣外遺跡	124	向井山遺跡
17	御祭礼御腕所	53	貝田遺跡	89	宮ノ前遺跡	125	新家遺跡
18	紺屋遺跡	54	森山遺跡	90	市堂遺跡	126	新家オドリ山遺跡
19	降井家書院	55	上瓦屋遺跡	91	大坪遺跡	127	下村2号墳
20	降井家屋敷跡	56	湊遺跡	92	丁田遺跡	128	下村1号墳
21	中家住宅	57	檀波羅密寺跡	93	新池尻遺跡	129	新家オドリ山東遺跡
22	大久保A遺跡	58	檀波羅遺跡	94	十二谷遺跡	130	新家オドリ山南遺跡
23	五門遺跡	59	山出遺跡	95	小塚遺跡	131	新家古墳群
24	五門北古墳（参考地）	60	松原遺跡	96	岡口遺跡	132	フキアゲ山西遺跡
25	五門古墳（参考地）	61	中開遺跡	97	中嶋遺跡	133	フキアゲ山東遺跡
26	大浦中世墓地	62	末廣遺跡	98	羽倉崎遺跡	134	兎田古墳群
27	山ノ下城遺跡	63	安松遺跡	99	羽倉崎東遺跡	135	引谷池古墳
28	大久保C遺跡	64	長滝遺跡	100	船岡山遺跡	136	狐池遺跡
29	正法寺跡	65	植田池遺跡	101	岡本廃寺	137	佐野王子跡
30	白地谷遺跡	66	郷之芝遺跡	102	船岡山南遺跡	138	上之郷牛神
31	金剛剛法寺跡	67	日根野遺跡	103	藤波遺跡	139	廐戸王子跡
32	千石堀城跡	68	机場遺跡	104	樫井城跡	140	慈眼院多宝塔
33	清児遺跡	69	棚原遺跡	105	樫井西遺跡	141	総福寺鎮守天満宮本殿
34	二ツ池遺跡	70	向井代遺跡	106	道ノ池遺跡	142	意賀美神社本殿
35	名越遺跡	71	向井池遺跡	107	岡ノ崎遺跡	143	奥家住宅
36	集原池遺跡	72	母山遺跡	108	中菖蒲遺跡		

熊取町周辺遺跡地名表

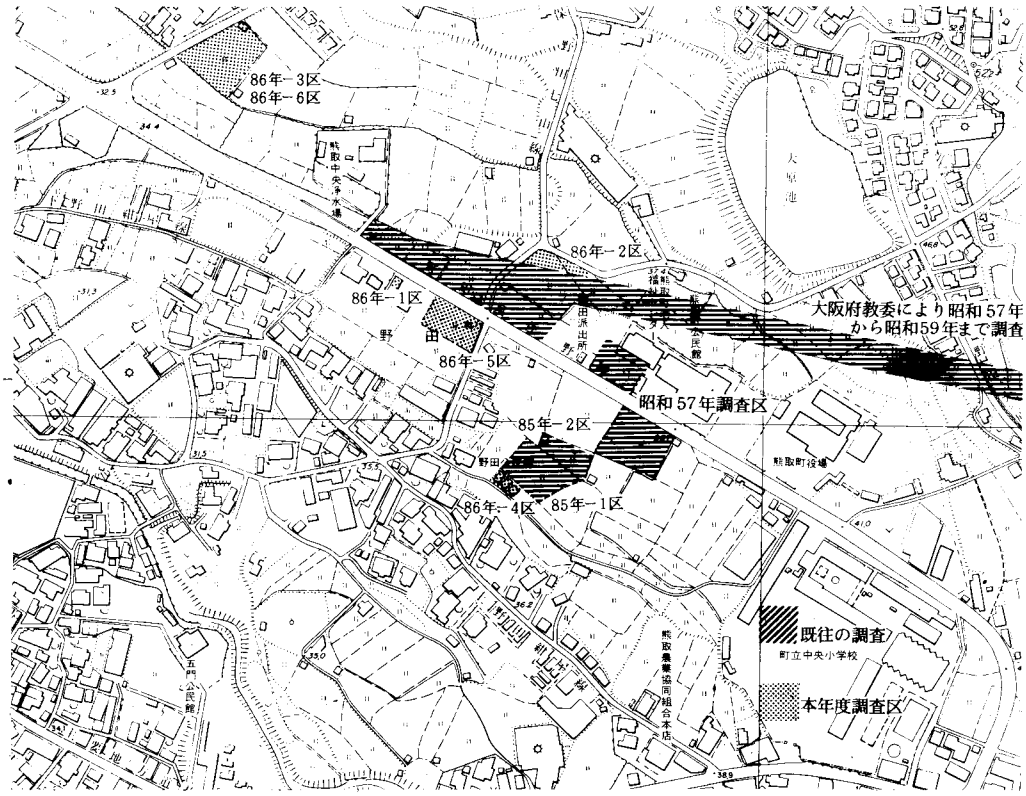
第2章　東円寺跡の調査

第1節　既往の調査

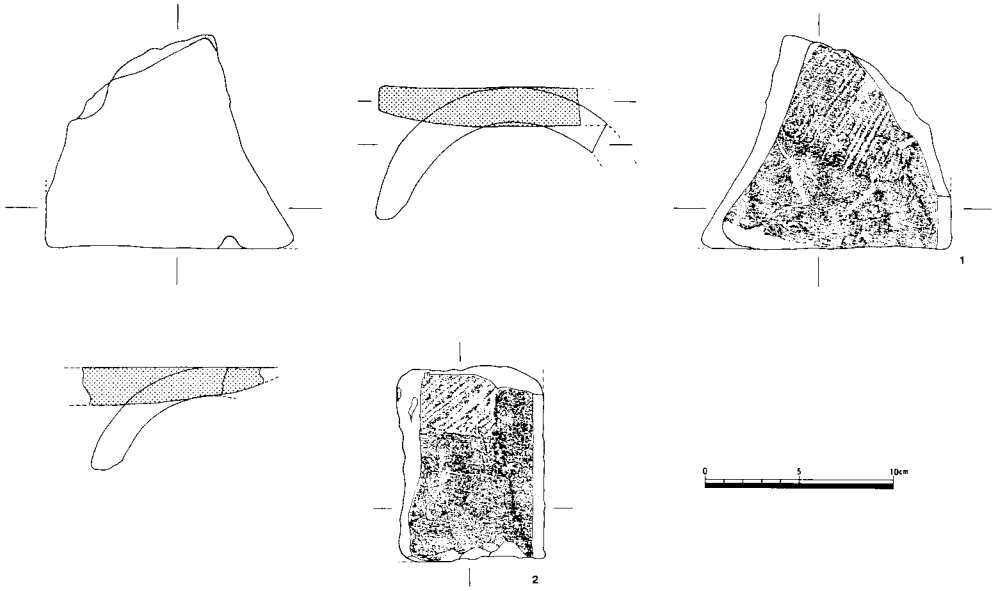
東円寺跡は古くより小字名や古瓦などの遺物の散布により、寺の存在が想定されていた。昭和57年大阪府教育委員会発行の遺跡分布図にはその位置と範囲が記入されている。こうして周知された東円寺跡では、国道170号線の工事に伴う調査が大阪府教育委員会により昭和57年から昭和59年までの間に3次にわたる調査が行われている。

また、熊取町教育委員会は現消防署敷地と道路を挟んで南側の土地の試掘調査、数ケ所の柱穴を検出し、瓦器椀などの遺物が出土した。また昭和60年度には個人住宅等の建築工事に伴う事前調査が2ケ所実施され、それぞれ溝や建物跡とみられるピットが数ケ所検出された。以上が既往の調査である。

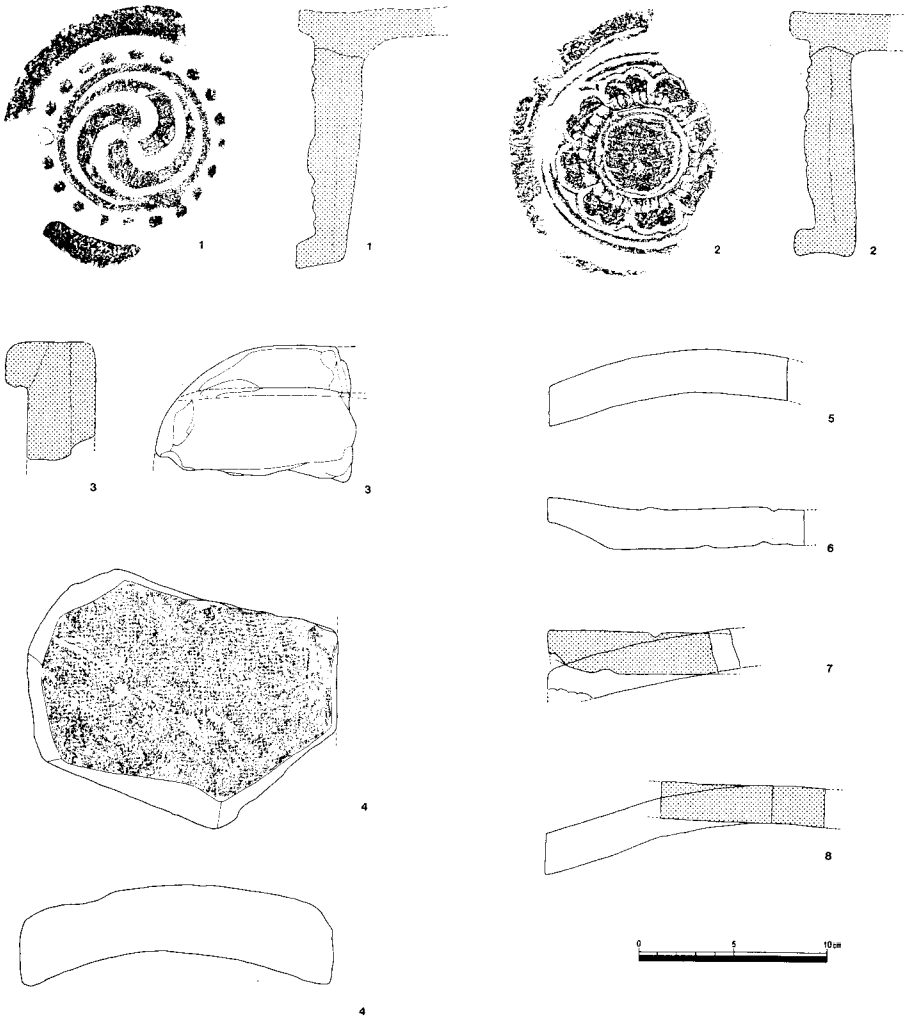
以下昭和57年度の消防署用地試掘調査で出土した瓦の実測図と観察表を掲載することとした。



第３図　調査区位置図



第４図　東円寺跡周辺表採瓦(1)



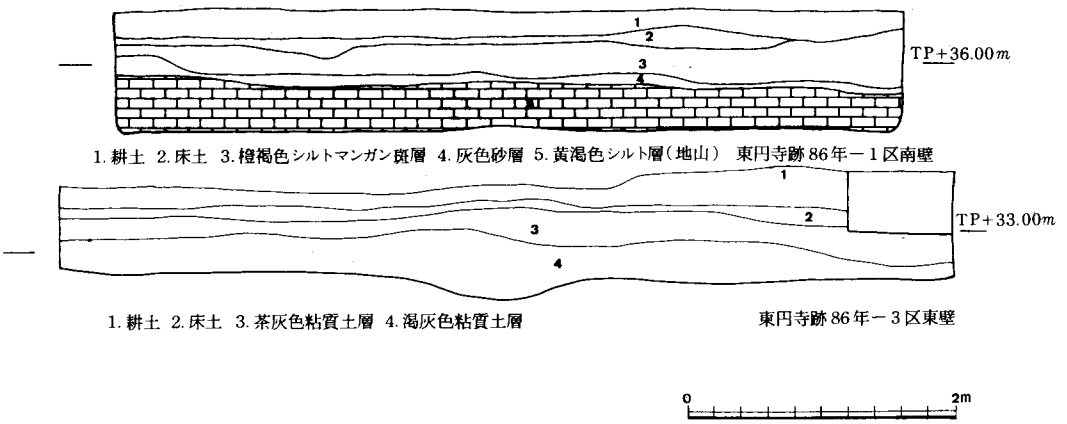
第５図　東円寺跡周辺表採瓦(2)

第２節　東円寺跡８６年－１区の調査

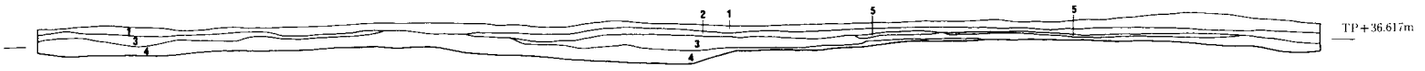
東円寺跡86年－１区は推定寺域より３５０ｍ西にはずれた地点で、小字名では租利にあたる。調査は申請地内に南北方向に長さ５ｍ、巾50cmのトレンチを二本と東西方向に長さ５ｍ、巾50cmのトレンチを設定し行った。層序は土層より25cm前後の耕土、10cmの床土、10cmから15cmの褐色シルトマンガン斑層、15cm以下の灰色砂層が堆積し地山の黄褐色シルト層に達する。当該地には遺物包含層は見当らず、遺物、遺構は検出されなかった。

第３節　東円寺跡８６年－３区の調査

東円寺跡86年－３区は東円寺跡の範囲の西端であり、推定寺域とみられる地点より西へ約５００ｍはずれており、小字名では平池にあたる。調査は申請地内に南北方向に長さ５ｍ、巾１ｍのトレンチを設定して行った。層序は上層より20cm前後の耕土、10cm前後の床土、15cmから20cmの茶灰色粘質土層、45cm前後の褐灰色粘質土層が堆積し、地山の茶灰色粘土層に達する。当該地では遺物、遺構は検出されなかった。

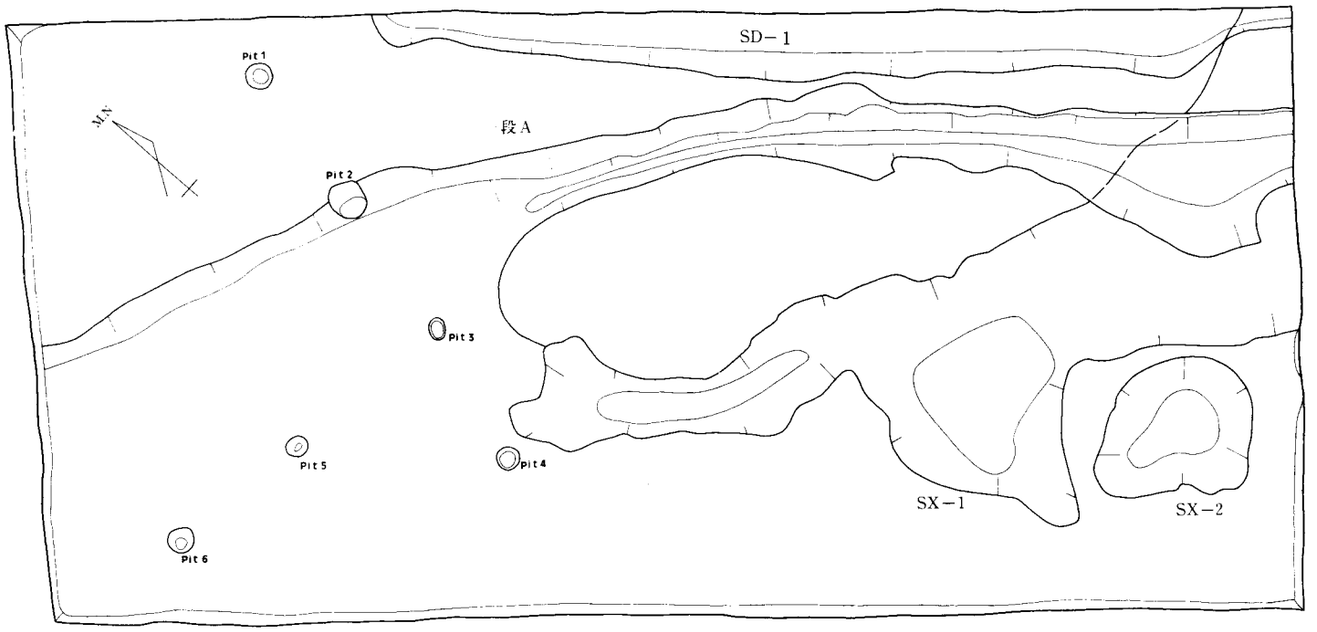


第６図　東円寺跡　86年－１区、３区土層図



1. 耕土 2. 床土 3. 茶灰色粘質土層4. 紫灰色粘質土マンガン斑層 5. 灰色粘質土層

北 壁 断 面



南 壁 断 面

1. 耕土 2. 床土 3. 茶灰色粘質土層 4. 紫灰色粘質土マンガン斑層 5. 暗紫灰色粘質土マンガン斑層

西 壁 断 面

1. 耕土 2. 床土 3. 茶灰色粘質土層4. 紫灰色粘質土マンガン斑層
5. 暗紫灰色粘質土マンガン斑層

東 壁 断 面

1. 耕土 2. 床土 3. 茶灰色粘質土層4. 紫灰色粘質土マンガン斑層
5. 淡紫灰色粘質土層6. 黄色粘土層7. 黄灰色礫まじり粘土層

第７図　東円寺跡８６年－４区土層図、平面図

第４節　東円寺跡８６年－４区の調査

東円寺跡86年－４区は推定寺域より１５０ｍ西にはずれた地点で小字名では藤木田にあたる。現在の地表面は昨年度調査した東円寺跡85年－１区より地表面のレベルで約50㎝低い。周辺の地形は調査区の南方向に位置する住吉川にむかってその標高を下げていく地形で、中位段丘の前縁にあたる。86年－４区の南側の田畑ではさらに１ｍ低く、かなり急に標高を下げていく。調査は申請地内に東西に長さ14ｍ、巾１ｍのトレンチを設定して行ったが、段を検出し、これを追求するため拡張した。層序は上層より20㎝の耕土、10㎝の床土、10㎝の茶褐色粘質土層、15㎝の紫灰色粘質土マンガン斑層と堆積し、地山の黄灰色粘土に達する。遺物の大半は紫灰色粘質土マンガン斑層より出土している。主な出土遺物は瓦器、東播系のこねばち、須恵器、瓦片、染付などである。

遺構

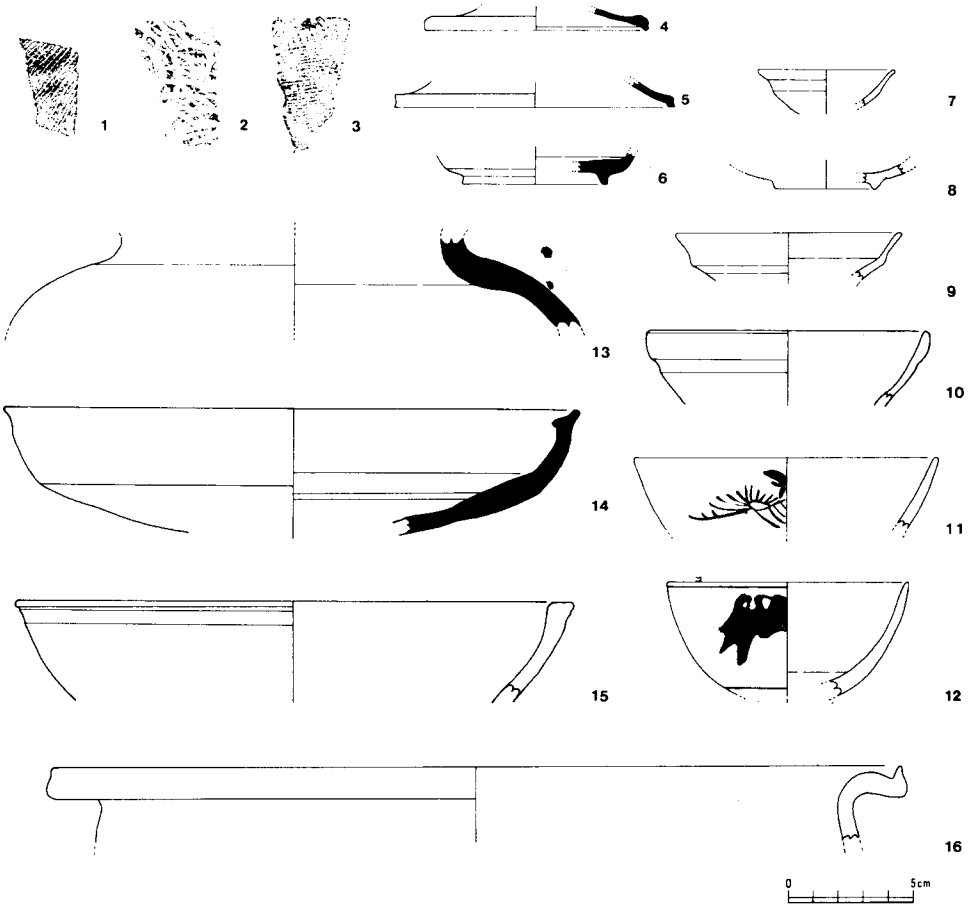
検出した遺構は、ピット６基及び不整形土坑、段である。ピットはすべて径が25㎝前後と法量が均一であり、円形を呈している。深さは最も浅いもので10㎝を測り、最も深いもので25㎝を測る。ピットの出土遺物としては瓦器片があげられるくらいで、時期は決定できないが建物として復元できる可能性もある。他の遺構からは遺物は出土しなかった。

段Ａの段上は遺物を多量に包含している紫灰色粘質土マンガン斑層がみうけられないことから、近世以降にかなりの削平をうけているものと思われる。

遺物

出土した遺物は全て破片である。近世遺物は耕土、床土より少量出土したに過ぎない。近世以前の遺物は紫灰色シルトマンガン斑層より出土している。以下遺物の観察をおこなう。第８図16は弥生式土器の甕と思われるが摩滅していて調整痕はわからない。１、２は須恵器の甕の体部とおもわれるが、破片が小さいために拓影のみ掲載した。４、５は高杯の脚部と思われる。６は杯で、13は甕の肩部である外面にタタキメをほどこしてある。14は鉢で口縁が内傾している。須恵器については全て８、９世紀の時期のものと思われる。15は東播系こねばちで口縁部のみの残存である。７、８、９は瓦器で、７、９は瓦器椀で８

は皿である。10は白磁の碗で、11、12 は伊万里の染付である。いずれも口縁部のみの残存であるが12は、みこみに蛇の目に釉を掻き取った跡があり、呉須の発色が悪い。図化した遺物も殆どが破片であるが、東播系こねはち及び瓦器が破片数としては多かった。



第８図　東円寺跡86年－４区出土遺物

第５節　東円寺跡８５年－２区の調査

東円寺跡85年－２区は推定寺域より50m西にはずれた地点で小字名では堂の後にあたる。調査は申請地内に第１トレンチとして東西に長さ31m、巾１m、第２トレンチとして南北に長さ14m、巾１mのトレンチを設定し調査を開始したところ、溝、ピットなどを検出したので遺構の性格を追求するために第３トレンチとして東西に長さ32m、巾23mのトレンチをそれぞれ設定し、これらのトレンチの南側に東西方向に長さ５m、巾１mの第６トレンチと長さ３m、巾１mの第７トレンチを２本設定した。

層序

土層はほぼ水平な堆積で、上層より耕土、灰色粘土、灰褐色粘質土層､暗灰色褐色粘土層、褐色粘土層の順に堆積しており、地山の橙色粘土に達する。

地山は第１トレンチ西端では東端にくらべてレベルで30cm低くなっている。また第２トレンチ北端地山のレベルより南端のレベルが25cm低い。当該地の旧地形は西側方向と南側方向へ緩やかに下っていき、北東方向ではほぼ平坦で台地の尾根のような地形ではないかと思われる。

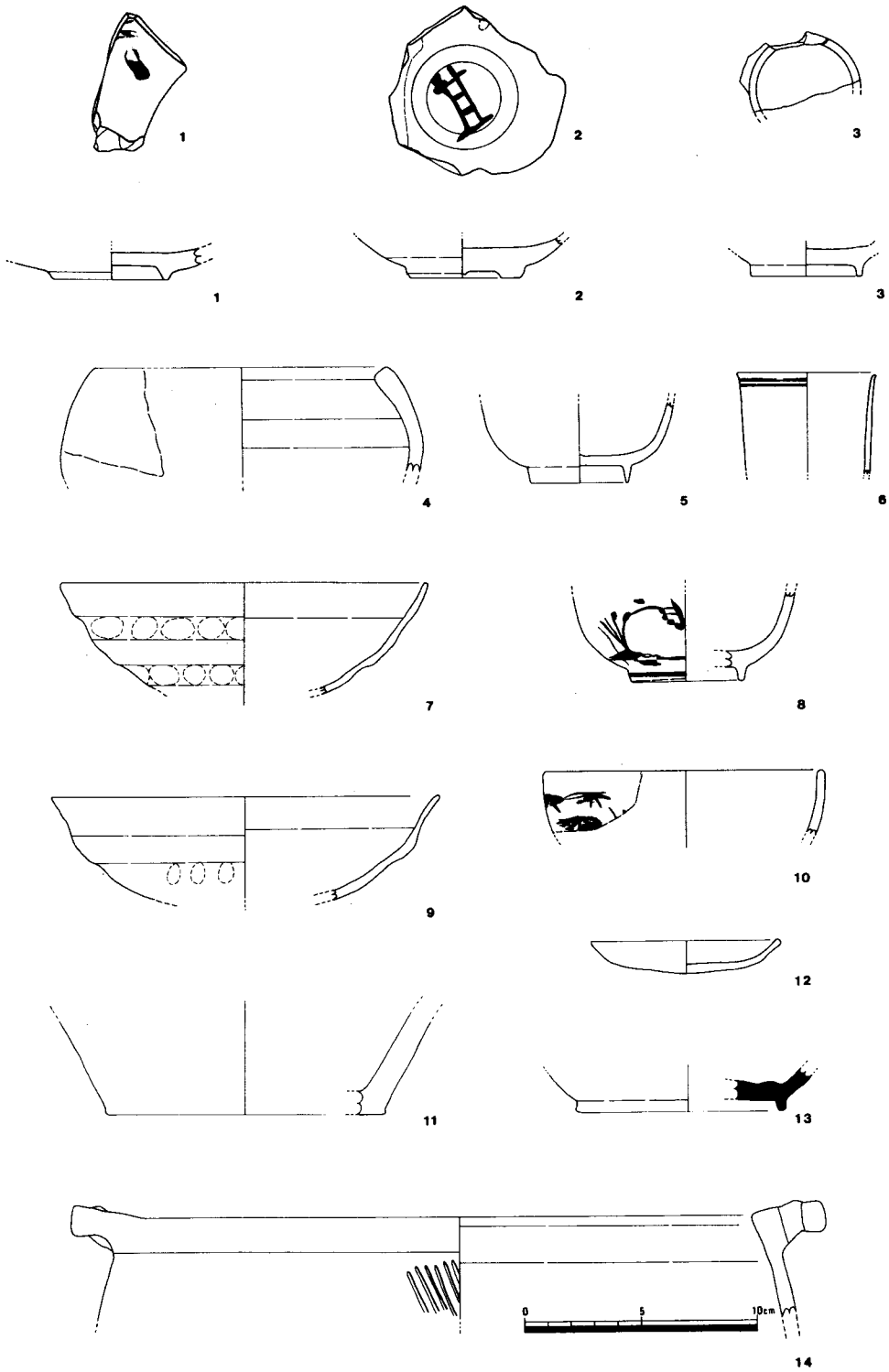
遺構

遺構としてはピットが14基、溝が５条検出できたほかに２ケ所の石溜りも検出した。

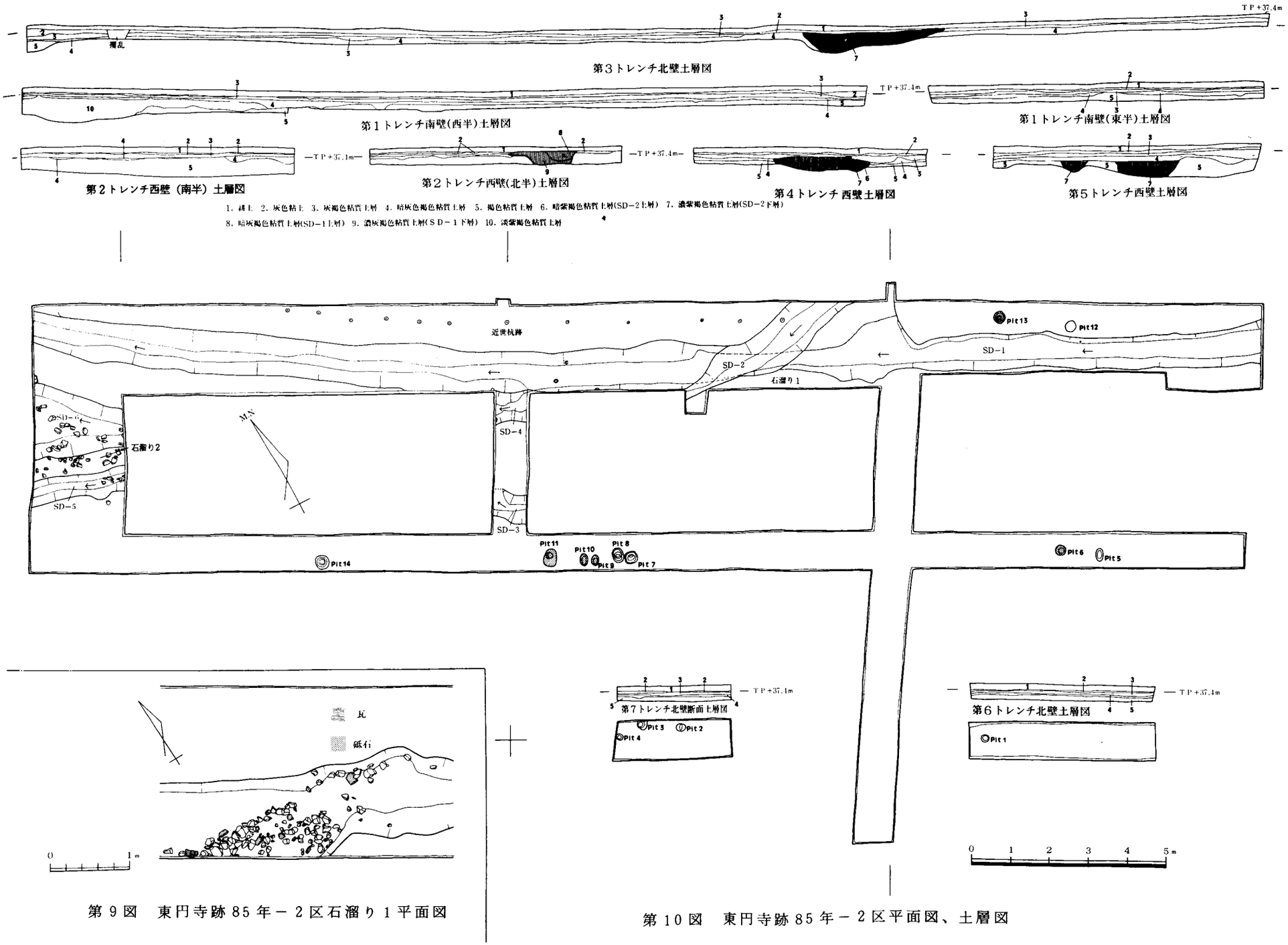
ＳＤ－１は第３トレンチで検出された南東方向から北西方向へ流れる溝で、現在の土地区画に並走している。近世の溝で埋土については上層の埋土は暗灰色粘質土で下層の埋土は濃灰色粘質土である。それぞれ伊万里の染付、煙管の雁首などが出土している。法量は平均巾１２０cmを測り、深い部分で表土より40cmを測る。

ＳＤ－２は第３トレンチを北方向から南方向へ流れる溝で、時期的には12・３世紀以降とおもわれる。出土遺物としては瓦器、瓦の破片である。埋土については上層の埋土は暗紫灰色粘質土で下層の埋土は濃灰色粘質土であった。法量は最大巾１４０cmを測り、一番深い場所でレベルは表土より３６.３cmを測る。

ＳＤ－３、４、５、６はＳＤ－２とつながるものと思われる。遺構の埋土も遺物もＳＤ－２と同じである。

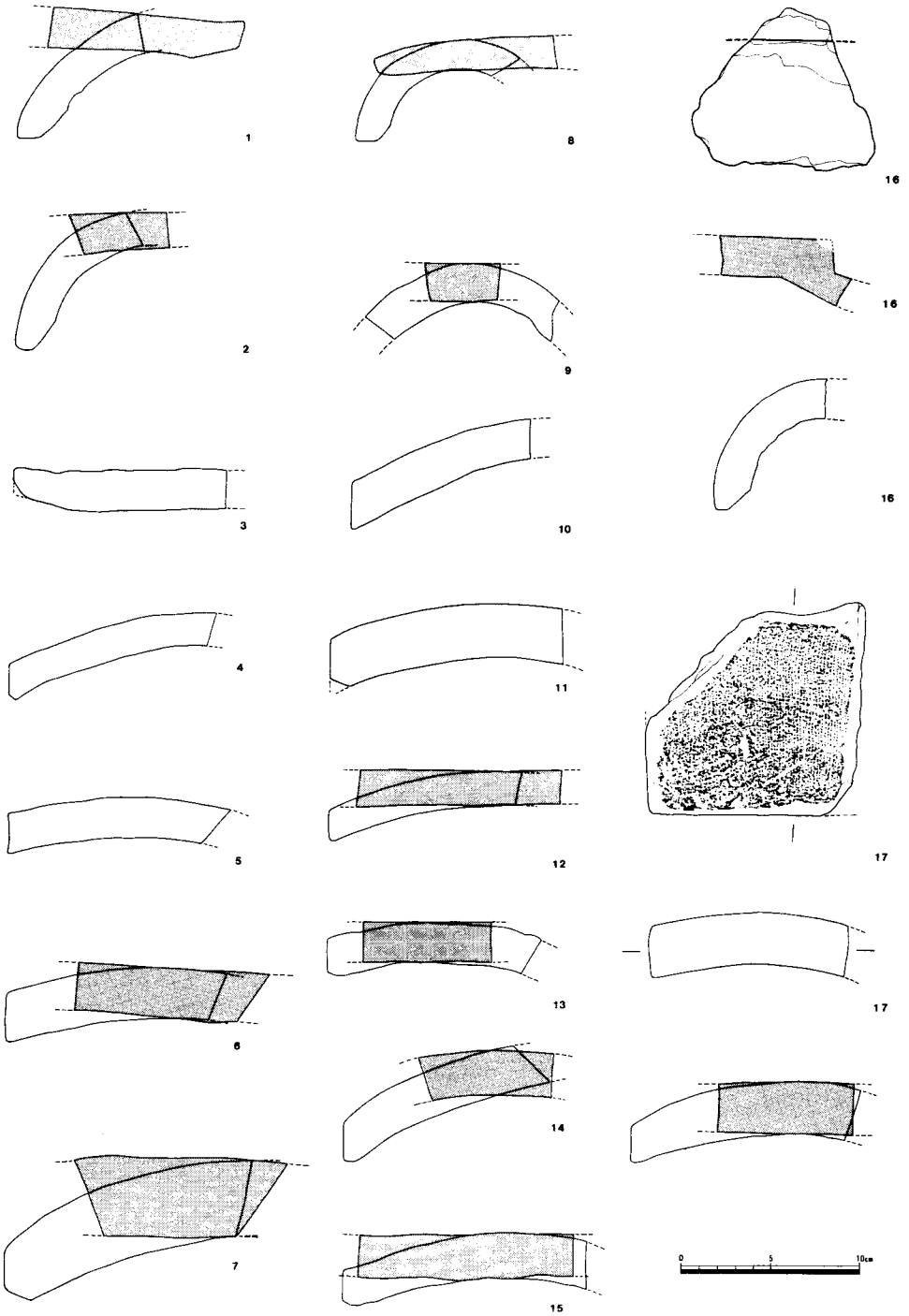


第 11 図　東円寺跡 85 年－ 2 区出土遺物



第９図　東円寺跡85年－２区石溜り１平面図

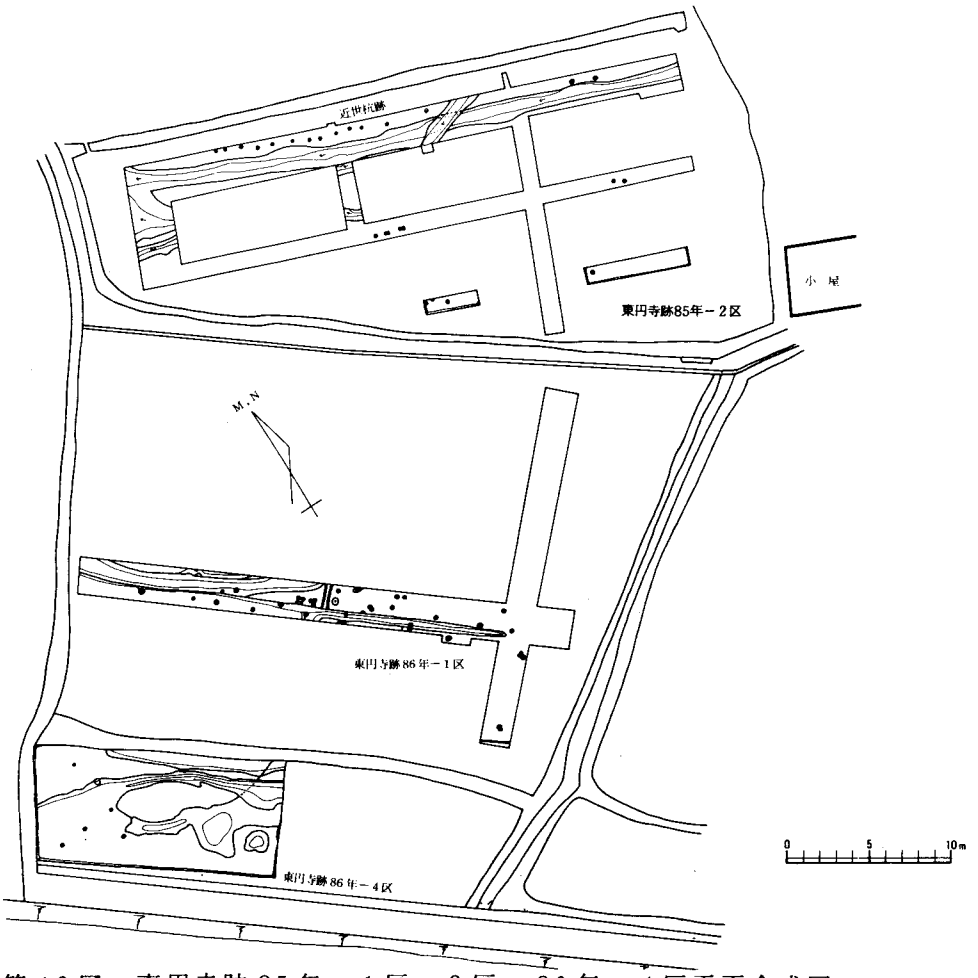
第10図　東円寺跡85年－２区平面図、土層図



第12図　東円寺跡85年－2区出土遺物

ピット

ピットの全ては地山を掘削している。法量は最大径のピットで30cmを測り最小径のピットで16cmを測る。深さは最も深いピットで35cmを測り最も浅いピットで７cmを測る。また遺物を含むピットと含まないピットがあり、遺物を含むピットはピット６、９、10、11、13であった。ピットに含まれている遺物は瓦器の破片、瓦の破片である。今回の調査で検出したピットは調査範囲が狭いために建物跡としての可能性はあるが復元はできなかった。またＳＤ－５、ＳＤ－６の深い部分に石溜りがみうけられ、多量の石と瓦が出土した。ＳＤ－６からは東円寺のものと思われる軒平瓦の破片が出土しているが、出土した瓦のすべては焼成が悪く、赤茶色を呈している。火災などによる２次的な焼成であると思われるが、実態の解明は今後の課題である。



第13図　東円寺跡85年－１区、２区、86年－４区平面合成図

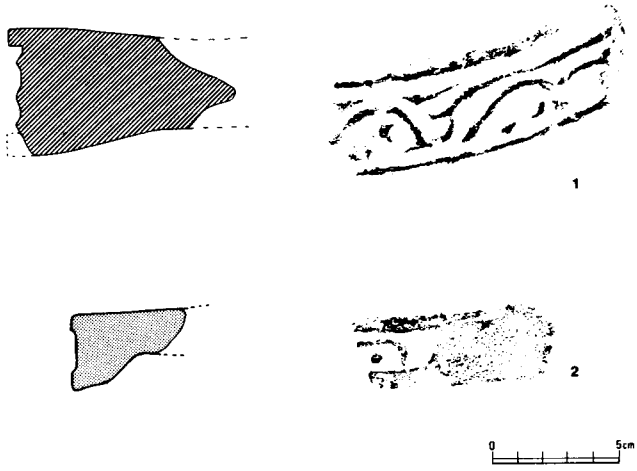
出土遺物

出土した遺物のほとんどは、灰褐色粘質土層と橙褐色粘質土層から出土している。遺物は近世磁器の皿、碗をはじめ瓦器、須恵器、瓦が出土した。

第11図13は、須恵器杯身で８、９世紀のものと思われる。12は瓦器の小皿であるが、摩滅がひどく、調整痕は読みとれない。７、９は瓦器の埦でどちらも外面に指頭圧痕がみられ、内面にはヨコナデ調整が施してある。また７の瓦器埦には、内面に螺旋状の暗文がみうけられる。14は土師質の土堝で取っ手がある。体部には右下がりの平行タタキを施してあり、取っ手を接合したのち、スリケシ調整が施してある。全体にすす、ハナレズナが付着している。４は土師質の火鉢のようであるが、胎土は荒く、焼成も軟である。１は伊万里の皿で低部のみの残存である。６は湯のみで口縁部の残存である。８、10は伊万里焼染付の碗で、８の碗は全体的に呉須の発色が悪く、自然貫入がみられる。10はみこみに蛇の目に釉を掻き取ったあとがみうけられる。２は唐津焼であるが、底部に墨書がみられる。３は碗であり、裏面に清水の刻印が押されているが、実際は有田で焼かれたものらしい。(1)

第14図１は、唐草文軒平瓦である。瓦当面は半分残存しているが、周縁が欠損し唐草文自体もかなり摩滅が進んでいる。凸面には圧痕がみうけられ、凹面には布目と横方向への調整がみうけられる。凸面、凹面共にハナレズナを施してある。

（1）大阪府教委・佐久間貴士氏の御教示を得た。

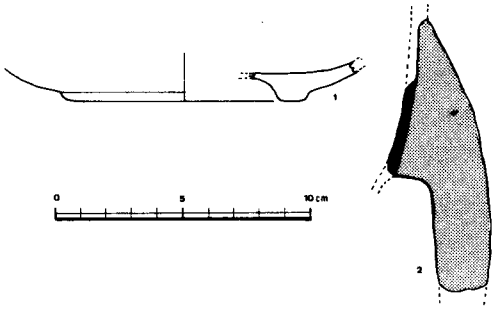


第14図　東円寺跡85年－２区軒平瓦

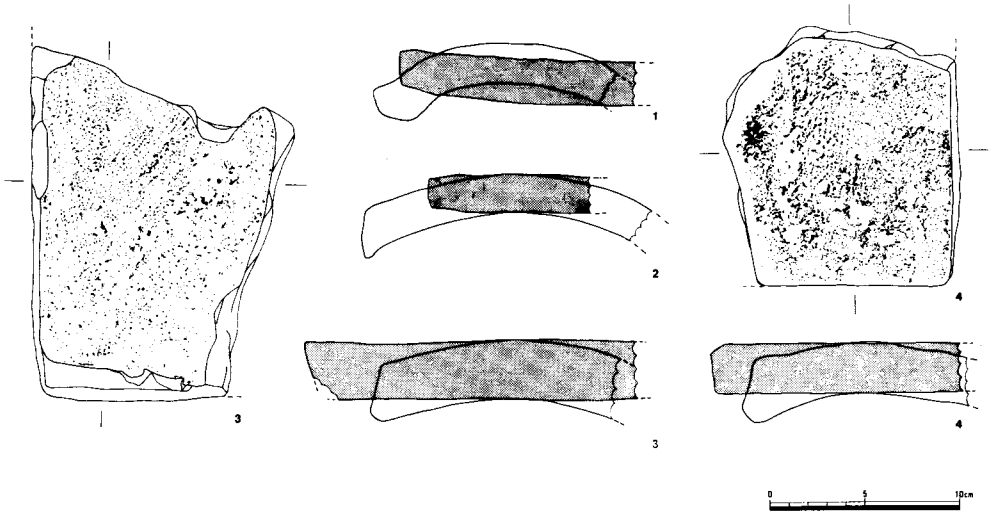
第３章　久保城跡の調査

第１節　既往の調査

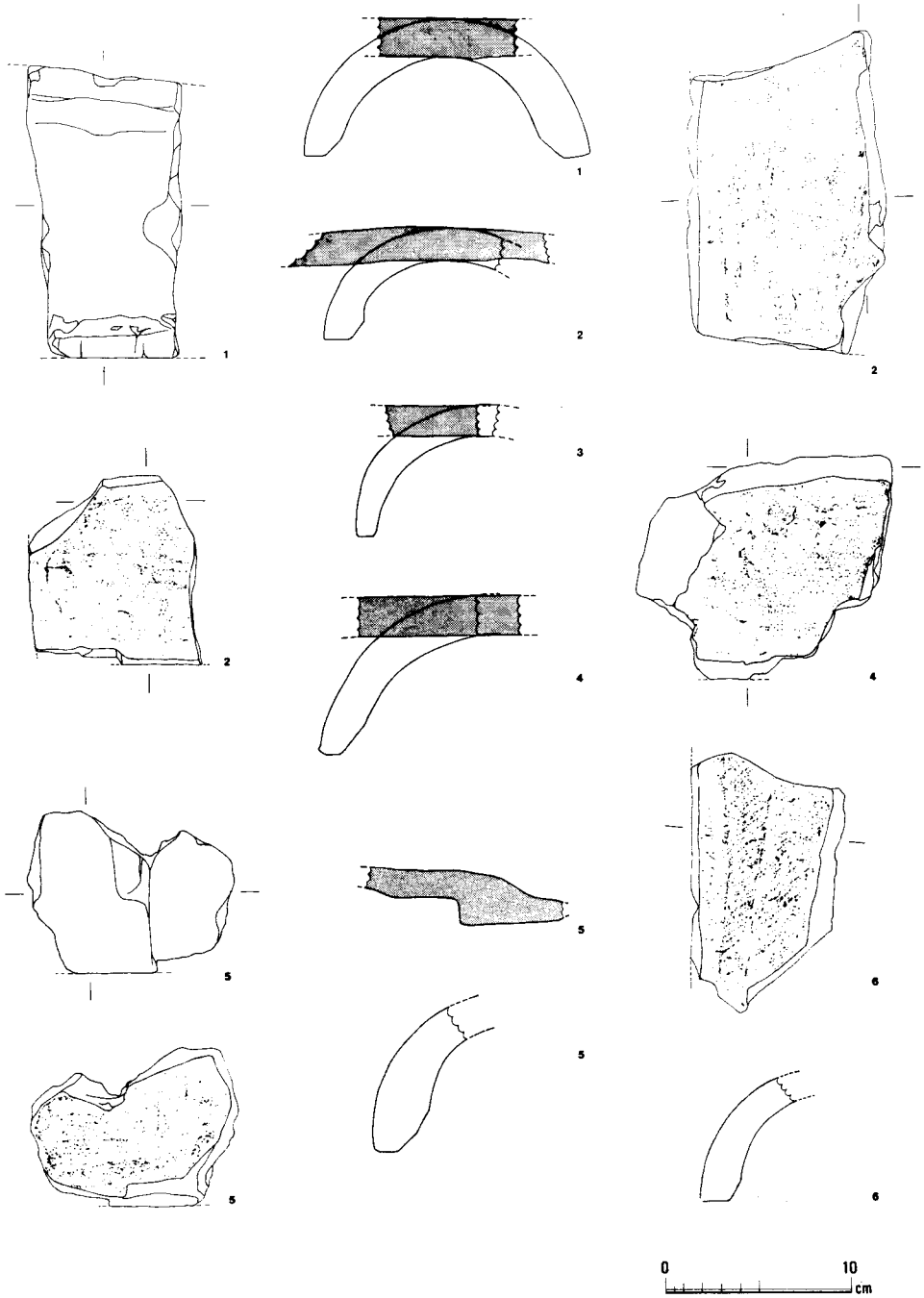
久保城跡は、見出川流域の永楽橋左岸一帯の水田に矢の倉、的場、土居の内、荒堀、中堀などの城郭に関連する小字名が集中して存在することから城郭跡と想定されている。既往の調査としては昭和58年に周辺の分布調査がおこなわれ瓦が多量に表面採取されている。その分布調査の遺物についても掲載することとした。第14図の遺物も分布調査によって表面採取されたものである。１は陶器の皿であるが釉がかかっていたものと思われる。２は足釜の脚部でハナレズナが付着している。



第１５図　久保城跡周辺表採遺物実測図



第１６図　久保城跡周辺表採平瓦実測図及び拓影



第 17 図　久保城跡周辺表採丸瓦実測図及び拓影

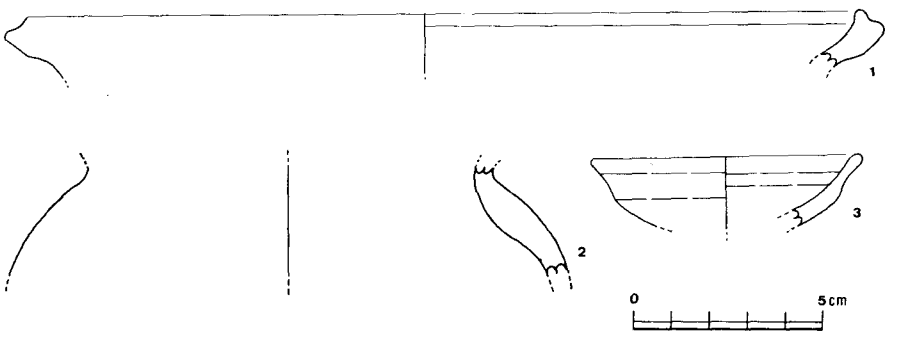
第２節　久保城跡８６年－１区の調査

久保城跡86年－１区は小字名では車屋敷にあたる地点で見出川左岸に位置する。調査は申請地内に長さ10ｍ、巾1.5ｍのトレンチを設定し行なった。

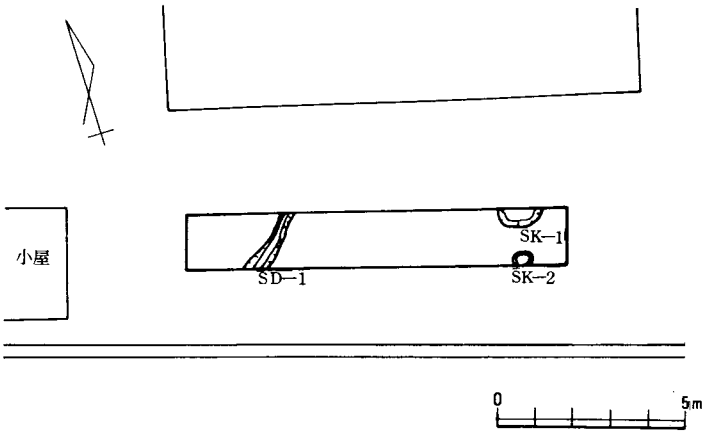
久保城跡86年－１区の土層は盛土の下に約20cmの灰色粘質土層、約10cmの茶灰色粘質土層、約10cmの茶褐色粘質土層、約20cmの茶黄色粘質土層と堆積し、地山の茶黄色シルト層に達する。茶灰色粘質土層はトレンチの西半部に存在し、茶黄色粘質土層も東半部に一部存在するのみである。旧地形は東より西方向へ緩やかに標高を下げる地形と思われる。

遺物と遺構

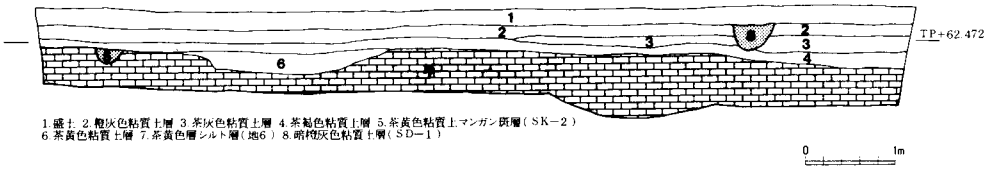
遺物は灰色粘質土層以下、地山直上までの全ての層位で出土しているが、全て破片であるために図化できたのは第18図の３点のみである。１は瓦質の土釜の口縁とみられる。２は陶器で器種は壷かと思われるが時期は不明である。胎土は粗く、もろい感じがする。３は瓦器の埦でヨコナデの痕がみうけられる。そのほか遺物としては須恵器の破片、ハナレズナのついた瓦の破片、伊万里の染付、サヌカイトの破片などが出土した。



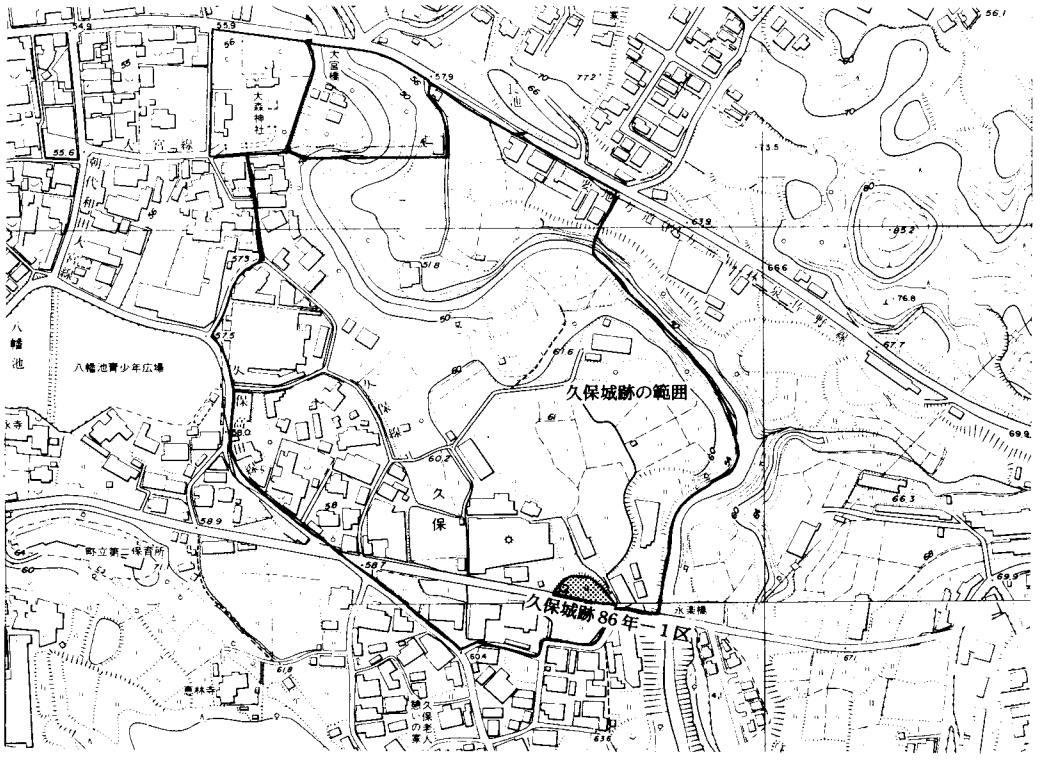
第１８図　久保城跡８６年－１区出土遺物



第19図　久保城跡86年－1区平面図



第20図　久保城跡86年－1区南壁断面土層図



第21図　久保城跡範囲及び86年調査区位置図

第4章　ま　と　め

今年度の調査でもいくつかの新たな知見があった。東円寺跡の85年－2区では集落跡の可能性を持つピットや中世の溝が検出された。遺物の出土も従来の東円寺跡の調査に比較すれば多かったし、平安末期の軒平瓦なども出土した。東円寺跡86年－4区でも東播系のこねばちや瓦器などの遺物が出土したほか数ケ所のピットも検出できた。これらの調査によって、東円寺を支えていた経済基盤たる集落の存在を断片的ではあるが確定できると思う。今後も東円寺跡の規模、性格の追求が課題である。

久保城の調査は今回が初めてであった。長さ10mのトレンチ1本ではあるが、遺物も出土し、遺構も確認できた。これからの久保城跡の調査を継続して実施することによってまた新たな事実が得られるであろう。

熊取町における埋蔵文化財の調査はまだ緒についたばかりである。周知の遺跡についてもこれから新規発見、範囲拡大が必要である。またその性格、規模の把握といった課題もこれからである。町内には現在32ケ所の周知の遺跡があるが、そのうち試掘調査も含めて実際に調査をおこなっている遺跡は、6ケ所に過ぎない。また関西国際空港の関連事業に伴って開発が増加することは必至で、今後は文化財の保存と活用を充分に配慮する必要がある。

遺跡発掘の重要性は単に歴史の資料を得るためだけでなく、過去の人々の叡知を知り、現代に生きる我々にとって先人に学べる場として活用していくことが重要だと思う。現在の我々がくりひろげている営みが本当に文化的、歴史的に価値があるのかを知るてがかりとして我々調査に携わる者は、遺跡での調査結果を活用できる形として現代人に還元していくことが課題であり責務であると考える。

付章　小字名について

東円寺跡及び久保城跡は小字名と遺物の散布によりその範囲が想定されている。東円寺跡ではトヨジ、東永寺、豊寺、堂の端、堂の後、大門などの小字名が集中して存在している。また久保城跡でも矢の倉、的場、土居の内、荒堀、中堀の小字名が集中している。

第22図　東円寺跡周辺小字名図

第23図　久保城跡周辺小字名図

図番号	法量 平均厚	胎土	色調	焼成	成形・調整・形態 凹面	成形・調整・形態 凸面
5－3 棟瓦？	――	良好　0.5㎜程度　暗灰色粒　極少	暗灰色	良好 還元炎焼成	――――	――――
5－4 平瓦	35㎜	良好　0.5～1.0㎜　白色粒　少	暗灰色	軟 2次焼成か？	布目痕	――――
5－5 平瓦	24㎜	良好　0.8～2.0㎜　白色粒　極少 0.2～1.0㎜　赤色粒　極少	茶灰白色	2次焼成か？	ハナレズナ （やや粗）	ハナレズナ （やや粗）
5－6 平瓦	22㎜	良好　0.3～0.8㎜　白色粒　極少 0.8～1.5㎜　黒色粒　極少	暗灰色	還元炎焼成	指頭圧痕 ヘラケズリ ハナレズナ（やや粗）	指頭圧痕 ヘラミガキ ハナレズナ（やや粗）
5－7 平瓦	22㎜	良好　0.8～4.0㎜　白色粒　多 0.5～1.0㎜　褐色　少	灰白色	良好 還元炎焼成	ヘラケズリ	
5－8 平瓦	19㎜	良好　0.5～5.0㎜　白色粒　多 0.5～1.0㎜　黒色粒　少	茶灰白色	良好 還元炎焼成	――――	――――
4－1 丸瓦	22㎜	良好　0.8～2.0㎜　白色粒　少 0.5～4.0㎜　黒色粒　極少	茶灰白色	良好 還元炎焼成	布目痕 ヘラケズリ（2方向） 平行たたき目	
4－2 丸瓦	19㎜	良好　0.8～4.5㎜　褐色粒　少 0.3～0.2㎜　白色粒　多	黄茶灰色	良好 還元炎焼成	布目痕 ヘラケズリ（2方向） 平行たたき目	――――

第2表　東円寺跡82年分布調査表採瓦観察表

図番号	法量 平均量	胎土	色調	焼成	成形・調整・形態 凹面	成形・調整・形態 凸面
12－1 丸瓦	20㎜	良好 0.5～2.5㎜ 白色粒 少 0.8～2.0㎜ 暗褐色粒 少	暗灰色	良好 還元炎焼成		
12－2 丸瓦	22㎜	良好 0.3～1.5㎜ 黒色粒 多 0.3～3.0㎜ 白色粒 多	灰茶白色	軟 2次焼成か？		
12－3 平瓦	23㎜	良好 0.3～1.0㎜ 白色粒 多 1.0～2.0㎜ 黄白色粒 多	淡灰茶色	軟 2次焼成か？	ヘラケズリ ハナレズナ	ナワタタキ ハナレズナ
12－4 平瓦	19㎜	良好 0.3～1.0㎜ 白色粒 多 0.6～1.5㎜ 黒色粒 少	青灰色	還元炎焼成	ハナレズナ （やや粗）	ハナレズナ （やや粗）
12－5 平瓦	22㎜	良好 0.3～1.0㎜ 暗灰色粒 少 0.2～1.5㎜ 白色粒 多	暗灰色	軟 2次焼成か？	ハナレズナ（細）	ハナレズナ（細）
12－6 平瓦	28㎜	良好 0.5～1.2㎜ 暗灰色粒 少 0.2～1.0㎜ 白色粒 多	淡灰褐色	軟 2次焼成か？		ハナレズナ（細） ナワタタキ
12－7 平瓦	44㎜	良好 0.2～0.8㎜ 暗灰色粒 少 0.2～1.5㎜ 白色粒 少	灰茶白色	軟 2次焼成か？	ヘラミガキ	
12－8 丸瓦	18㎜	良好 0.5～1.2㎜ 暗灰色粒 少 0.3～1.0㎜ 白色粒 少	灰茶白色	2次焼成か？		
12－9 丸瓦	22㎜	良好 0.3～0.8㎜ 黒色粒 少 0.6～1.0㎜ 白色粒 少	黄橙白色	2次焼成か？		
12－10 平瓦	26㎜	良好 0.8～1.0㎜ 暗灰色粒 少 0.3～1.5㎜ 白色粒 多	暗灰色	軟 2次焼成か？	ヘラケズリ 指頭圧痕	ヘラミガキ
12－11 平瓦	32㎜	良好 0.3～0.8㎜ 白色粒 少 0.5～1.2㎜ 暗灰色粒 少 0.3～0.5㎜ 黒色粒 極少	暗灰褐色	2次焼成か？		

第3表　東円寺跡85年－2区出土瓦観察表

図番号	法量 平均量	胎土	色調	焼成	成形・調整・形態 凹面	成形・調整・形態 凸面
12－12 平瓦	21㎜	良好 0.2～1㎜ 白石粒含む	青灰色	軟 二次焼成をうけている	指頭圧痕あり	
12－13 平瓦	23㎜	良好 0.3～0.8㎜ 白石粒含む	青灰色	軟 二次焼成をうけている		
12－14 平瓦	24㎜	良好 1.5～3㎜ 白石粒含む	橙灰色	軟 二次焼成をうけている	ハナレズナ ヘラミガキ	ハナレズナ
12－15 平瓦	25㎜	良好 0.3～1.2㎜ 白石粒含む	黄橙圧色	軟 二次焼成をうけている	ハナレズナ ヘラミガキ	ハナレズナ
12－16 平瓦	23㎜	良好 0.5～1.5㎜ 白石粒含む	茶灰色	軟 二次焼成をうけている	布目 平行タタキ目	
12－17 平瓦	30㎜	良好 0.2～1㎜ 白石粒含む	灰色	軟 二次焼成をうけている	ヘラケズリ	
12－18 平瓦	20㎜	良好 0.5～1㎜ 白石粒含む	黄灰白色	軟 二次焼成をうけている	ヘラミガキ	

第3表　東円寺跡85年－2区出土瓦観察表

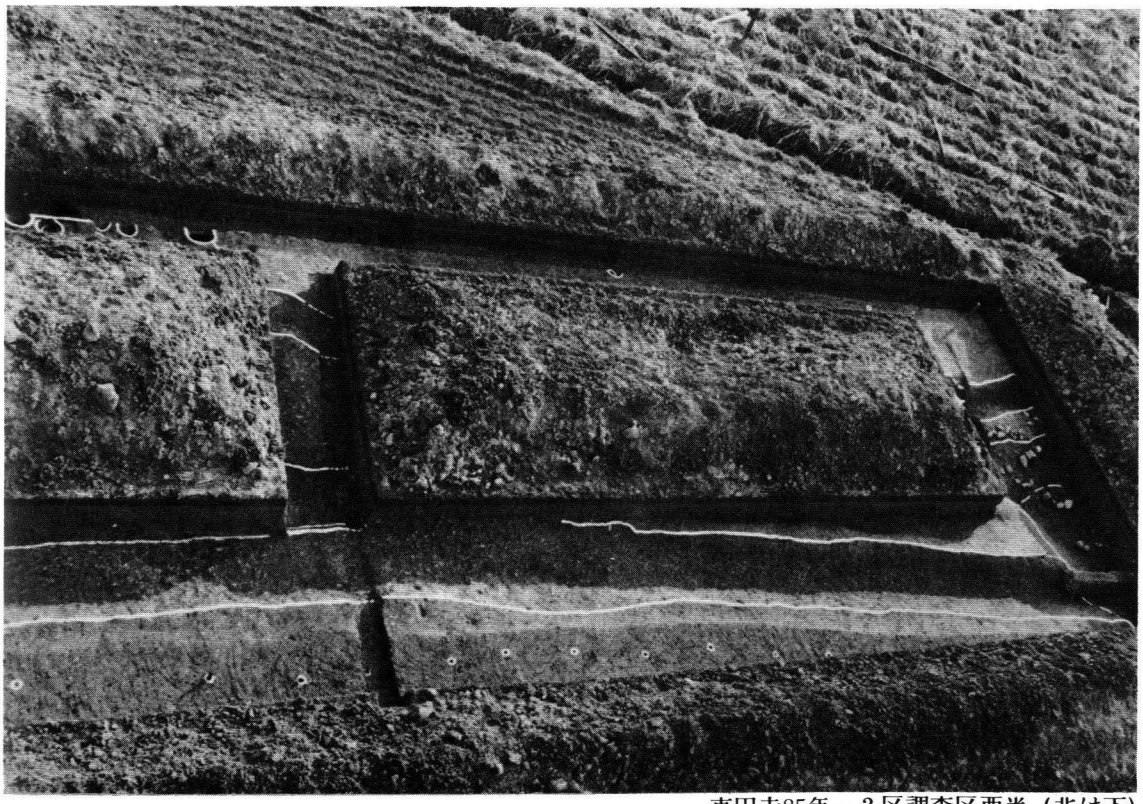
図番号	法量 平均量	胎土	色調	焼成	成形・調整・形態 凹面	成形・調整・形態 凸面
16－1 平瓦	23㎜	良好　0.2～1.0㎜　白色粒　少	暗灰色 淡灰褐色	二次焼成か？	ヘラケズリ（2方向） 指頭圧痕 ハナレズナ（やや粗）	ナワタタキ 平行タタキメ ハナレズナ（粗）
16－2 平瓦	22㎜	良好　0.3～1.0㎜　白色粒　少 〃	暗灰色 淡灰褐色 〃	二次焼成か？	ヘラケズリ ヘラミガキ 布目痕 指頭圧痕	ハナレズナ（やや粗）
16－3 平瓦	30㎜	良好　0.3～2.0㎜　白色粒　少	暗灰色 灰白色	良好 還元炎焼成	ヘラミガキ 指頭圧痕 ハナレズナ（粗）	平行タタキメ ハナレズナ（粗）
16－4 平瓦	26㎜	良好　0.3～2.5㎜　白色粒　少	淡灰色 淡灰褐色	二次焼成か？	ハナレズナ（粗）	平行タタキメ ハナレズナ（粗）
17－1 丸瓦	22㎜	良好	青灰褐色 黄橙灰色	軟 二次焼成か？	ヘラケズリ 布目痕	ナワタタキ ユビナデ
17－2 丸瓦	19㎜	良好　0.8～2.5㎜　暗灰色粒極少	暗灰色 淡灰茶色	良好 還元炎焼成	ヘラケズリ（2方向） 布目痕	ナワタタキ
17－3 丸瓦	22㎜	良好　0.2～1.0㎜　白色粒　極少	青灰褐色 淡赤褐色	軟 二次焼成か？	ヘラケズリ（2方向） 布目痕	
17－4 丸瓦	22㎜	良好	淡灰褐色 淡赤褐色	軟 二次焼成か？	ヘラケズリ 布目痕 平行タタキメ	ヘラミガキ（横） ナワタタキ ユビナデ
17－5 丸瓦	30㎜	良好	青灰色 淡灰茶色	二次焼成か？	ヘラケズリ（横） 布目痕	
17－6 丸瓦	20㎜	良好	暗灰色	軟	平行タタキ 布目痕	

第4表　久保城跡82年度調査表採瓦観察表

図　　版

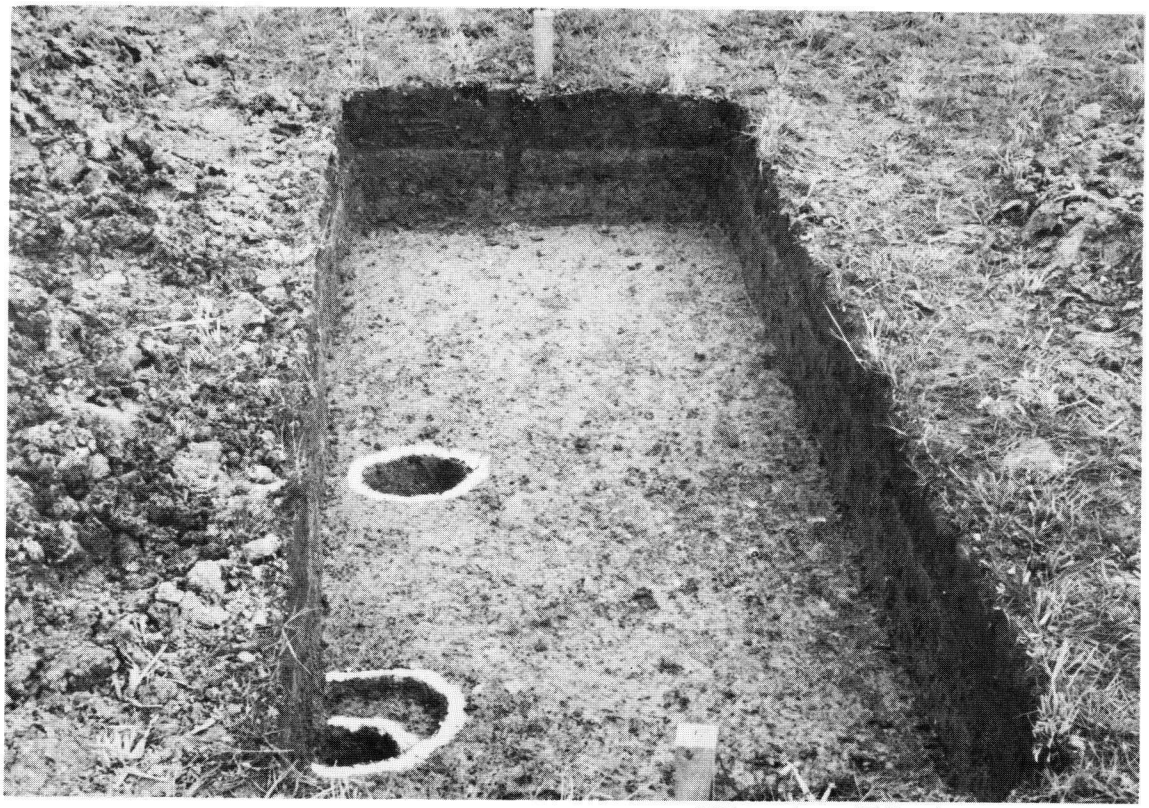
図版第一　東円寺遺跡85年－2区調査区全景

東円寺85年－2区調査区東半（北は下）



東円寺85年－2区調査区西半（北は下）

図版第二　第6トレンチ全景



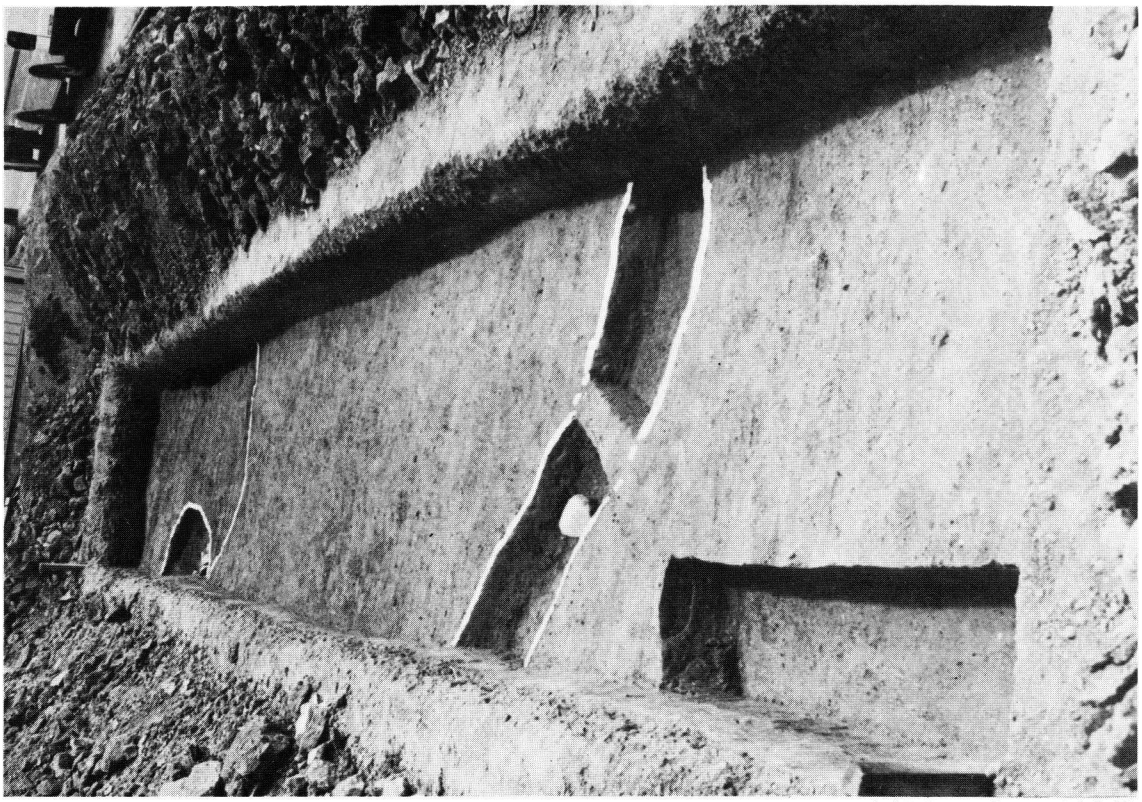
東円寺85年－2区第6トレンチ（北は右）

東円寺85年－2区第7トレンチ（北は右）

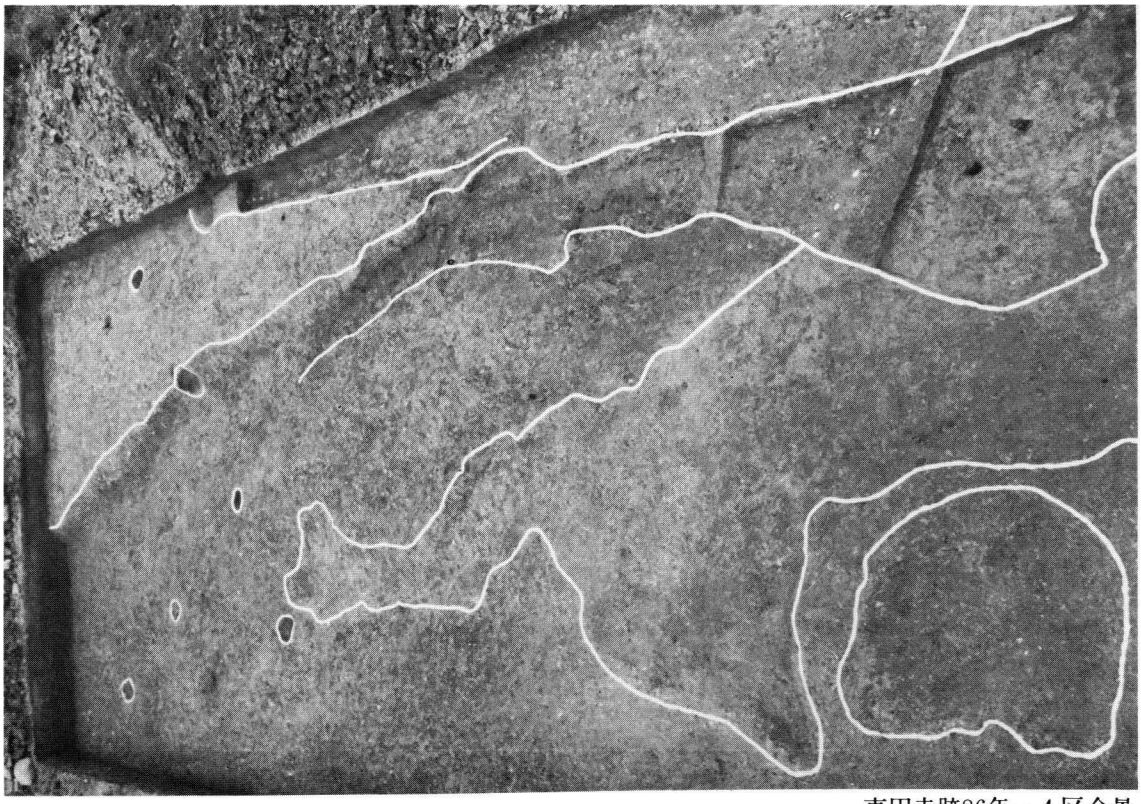
東円寺85年－2区西端（右が北）

東円寺85年—2区第7トレンチ（北は右）

図版第四　久保城跡86年1区全景・東円寺跡86年4区全景

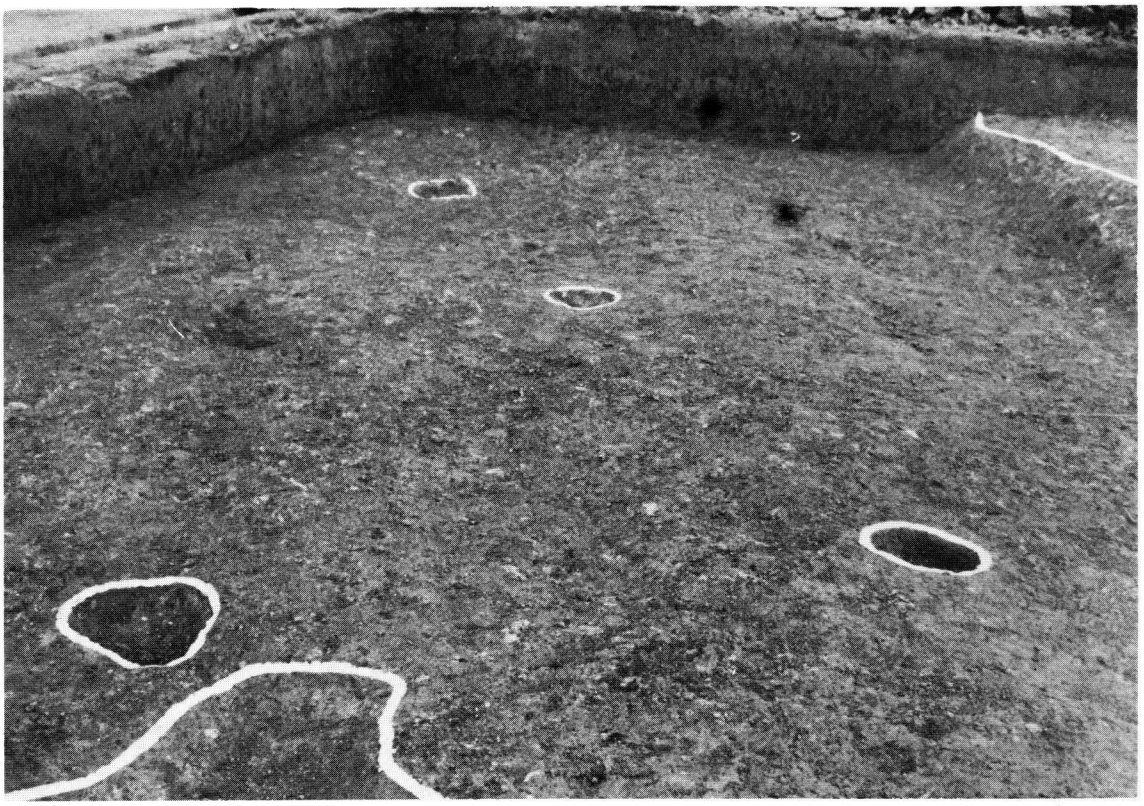


久保城跡86年－1区全景

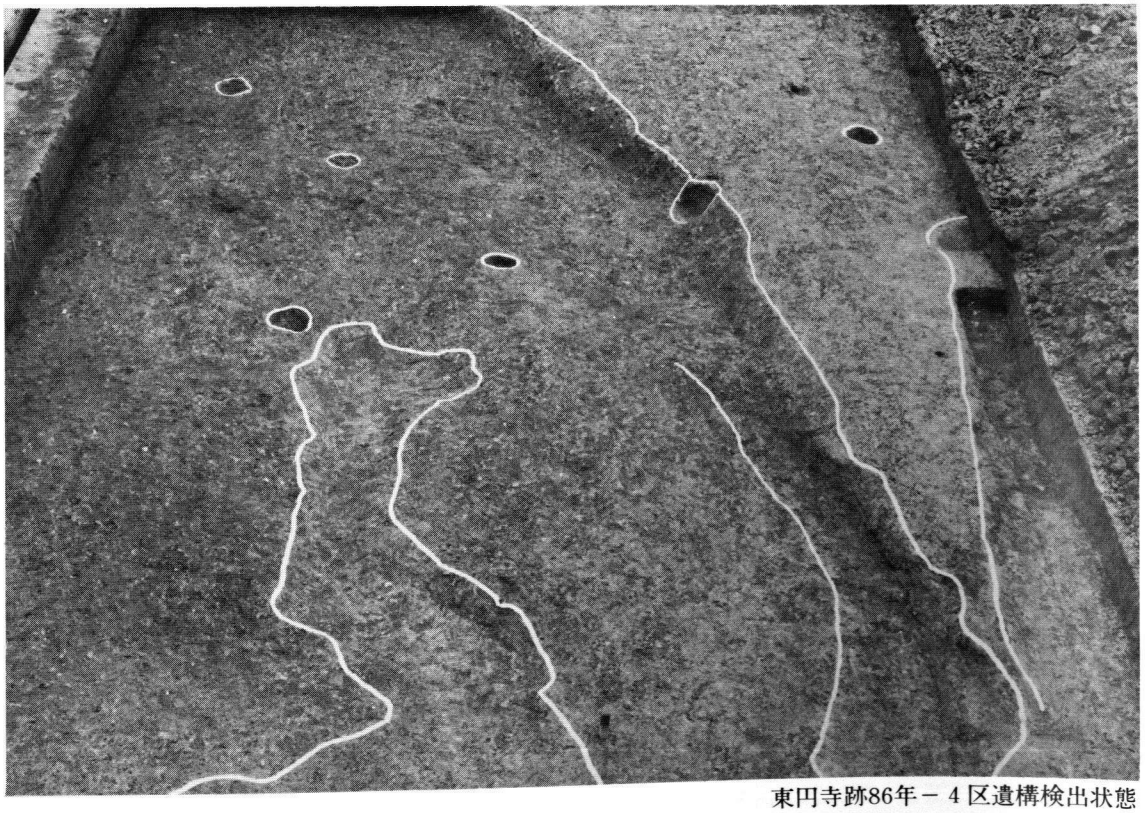


東円寺跡86年－4区全景

図版第五　東円寺跡86年4区遺構検出状態



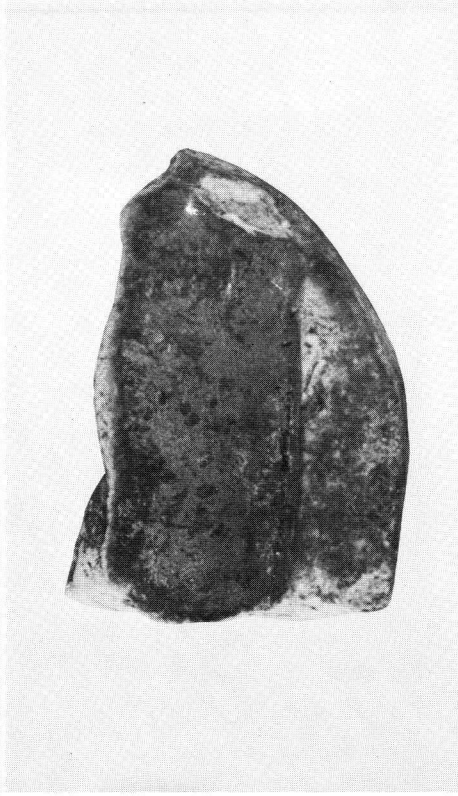
東円寺跡86年－4区ピット検出状態



東円寺跡86年－4区遺構検出状態

図版第六　東円寺跡出土遺物

2.東円寺跡表採瓦



1.東円寺跡周辺表採瓦

東円寺跡85年－２区出土唐草文軒平瓦